

参考資料

まちづくり関連用語の説明

参考資料

・まちづくり関連用語の説明

用語	よみがな	解説
あ行		
雨水貯留浸透設備	うすいちよりゅう しんとうせつび	大雨時に雨水を一時的にためたり、地中にしみ込ませたりする設備のことです。河川への急激な流出を抑え、浸水被害の軽減に役立ちます。
沿道活用拠点	えんどうかつよう きよてん	幹線道路沿道の立地特性を生かし、商業・業務施設などの立地を誘導する拠点やエリアのことです。
沿道立地型	えんどうりっちがた	幹線道路沿いに、自動車利用を前提とした商業・業務施設などが立地する形態のことです。

用語	よみがな	解説
か行		
合併処理浄化槽	がっぺいしより じょうかそう	し尿だけでなく、台所や風呂などの生活排水も併せて処理する浄化槽のことです。水質保全に効果があります。
幹線道路	かんせんどうろ	市内外の主要な地点を結び、人や物の移動を支える骨格的な道路のことです。都市活動や防災面でも重要な役割を担います。
観光交流拠点	かんこうこうりゅう きよてん	地域の観光資源を生かし、市民や来訪者の交流を促進する拠点のことです。本市では小中池公園や白里海岸が位置づけられています。
カーボン ニュートラル	かーぼん にゅーとらる	温室効果ガスの排出量から吸収・除去量を差し引いて、全体として実質ゼロにする考え方です。持続可能な社会の実現に向けた重要な考え方です。
既成市街地	きせいしがいち	古くから建物が集まり、市街地が形成されている区域のことです。道路や公園などの基盤整備とあわせて、居住環境の維持・向上が図られます。
拠点	きよてん	将来都市構造の中で、商業、業務、観光、スポーツ、地域生活など、一定の機能が集まり、まちづくりを支える中心となる場所のことです。
緊急輸送道路	きんきゅうゆそう どうろ	災害時に救助活動や物資輸送を支える重要な道路のことです。広域的な道路ネットワークの中で、防災上大きな役割を持ちます。

用語	よみがな	解説
か行		
区域区分 (線引き)	くいきくぶん	都市計画区域を「市街化区域」と「市街化調整区域」に分け、無秩序な市街化を防ぐ制度です。「線引き」とも呼ばれます。
景観計画	けいかんけいかく	地域の自然や歴史、街並みなどの良好な景観を保全し、育てるための計画です。景観形成の基本的な考え方やルールを定めます。
広域交流軸	こういき こうりゅうじく	近隣都市との連携を強化し、広域的な交流や物流を支える軸のことで、主に幹線道路などで構成されます。
広域幹線道路	こういきかんせん どうろ	近隣市町や広域圏を結び、人や物の広域的な移動を支える主要な道路のことで、
公共下水道	こうきょう げすいどう	生活排水や雨水を集めて排除・処理するための公共施設です。生活環境の改善や浸水被害の軽減に役立ちます。
公共交通	こうきょうこうつう	鉄道、路線バス、コミュニティバス、タクシーなど、多くの人々が利用できる移動手段のことで、日常生活を支える重要な基盤です。
公共交通空白地域	こうきょうこうつう くうはくちいき	鉄道駅やバス停が遠いなど、公共交通を利用しにくい地域のことで、移動手段の確保が課題となります。
交通結節点	こうつう けっせつてん	鉄道とバス、バスとタクシーなど、異なる交通手段を乗り換える場所のことで、駅前広場などが代表例です。
国土強靱化 地域計画	こくどきょうじんか ちいきけいかく	大規模自然災害に備え、被害の最小化と迅速な復旧・復興を図るための基本的な考え方や取組を定める計画です。
コンパクトな 都市構造	こんぱくとな としこうぞう	人口減少や少子高齢化に対応するため、都市機能を集約し、公共交通などで結ぶことで、効率的で暮らしやすい都市の形を目指す考え方です。
コンパクト・ プラス・ ネットワーク	こんぱくと・ぶら す・ねっとわーく	都市機能や居住機能を一定の区域に集約し、それらを公共交通ネットワークで結ぶことで、持続可能な都市づくりを目指す考え方です。

用語	よみがな	解説
さ行		
産業導入拠点	さんぎょう どうにゅう きよてん	交通利便性や地域資源を生かし、企業立地や産業の集積を促進する拠点のことです。本市では圏央道大網白里 SIC 周辺、みどりが丘の業務地区、白里地区臨海部の一部が位置づけられています。
市街化区域	しがいかくいき	すでに市街地を形成している区域、または優先的・計画的に市街化を進める区域のことです。
市街化調整区域	しがいかちょうせい くいき	市街化を抑制すべき区域のことです。原則として開発や建築が制限され、農地や自然環境の保全が図られます。
自主防災組織	じしゅぼうさい そしき	地域住民が自主的に結成し、防災訓練や災害時の初期対応、避難支援などを行う組織のことです。
自然的土地利用	しぜんてき とちりょう	農地、森林、海浜など、自然環境の保全や農業振興などを主な目的とした土地利用のことです。
首都圏中央連絡 自動車道 (圏央道)	しゅとけんちゅうお うれんらくじどうし やどう	首都圏を環状に結ぶ広域高速道路です。大網白里 SIC の整備により、広域交通の利便性向上が図られています。
将来都市構造	しょうらい としこうぞう	将来都市像を実現するために、ゾーン、拠点、交流軸などで都市の骨格を示したものです。
将来都市像	しょうらいとしぞう	将来のまちの目指す姿を示したものです。都市づくり全体の方向性をわかりやすく表す中心的な考え方です。
生産年齢人口	せいさんねんれい じんこう	一般に15歳から64歳までの人口を指し、社会や経済活動の中心を担う年齢層です。
線引き	せんびき	都市計画区域を市街化区域と市街化調整区域に区分することです。正式には区域区分といいます。
総合計画	そうごうけいかく	市の行政運営の最上位に位置する計画で、福祉、教育、環境、都市基盤など幅広い分野の長期的な方針を示します。
ゾーン	ぞーん	将来都市構造の中で、土地利用や機能の方向性が共通する一定の広がりを持つ区域のことです。本市では、住宅地、田園、海浜、森林などの特性に応じてゾーンを設定しています。

用語	よみがな	解説
た行		
耐震化	たいしんか	地震の揺れに耐えられるよう、建築物や施設を補強・改修することです。
地域交流軸	ちいき こうりゅうじく	市内の各地域を結び、交流や移動を促進する軸のことです。主に幹線道路や公共交通のネットワークで構成されます。
地域拠点	ちいききよてん	地域ごとの日常生活を支える拠点のことです。生活利便施設や公共施設などを備え、地域住民の暮らしを支えます。
地域包括 ケアシステム	ちいきほうかつ けあしすてむ	高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援を一体的に提供する体制です。
地区計画	ちくけいかく	地区の特性に応じて、道路、公園、建築物などのルールをきめ細かく定める計画です。
治水	ちすい	洪水などの水害を防ぐために川や水を管理することです。
中心拠点	ちゅうしんきよてん	都市の中心として、商業・業務などの主要な機能が集まり、市全体の都市活動の核となる拠点のことです。本市では大網駅周辺が位置づけられています。
津波避難施設	つなみひなんしせつ	津波発生時に住民や来訪者が一時的に避難するための施設です。津波避難タワーや築山などがあります。
津波避難タワー	つなみひなんたわー	津波発生時に高い場所へ緊急避難するための施設です。沿岸部などに整備されます。
定住意識	ていじゅういしき	現在住んでいる地域に今後も住み続けたいと考える意識のことです。住みやすさや地域への愛着を把握する指標の一つです。
都市インフラ	としいんぷら	道路、橋梁、上下水道、公共施設など、都市生活や経済活動を支える基盤施設のことです。
都市機能	としきのう	商業、業務、行政、医療、福祉、教育など、都市生活を支えるさまざまな機能のことです。
都市計画区域 マスタープラン	としけいかくくいき ますたーぷらん	都道府県が定める、都市計画区域の整備、開発及び保全の方針のことです。市の都市計画マスタープランの上位計画にあたります。
都市計画 マスタープラン	としけいかく ますたーぷらん	市町村が定める都市計画に関する基本的な方針です。将来像や土地利用、道路、交通、防災などの方針を示します。
都市公園	としこうえん	都市計画に基づいて設置される公園のことです。憩いの場、防災拠点、交流の場など多様な役割を担います。

用語	よみがな	解説
た行		
都市的土地利用	としてきとちりよう	住宅用地、商業用地、工業用地など、都市的な活動のために利用される土地のことです。
土砂災害警戒区域	どしゃさいがい けいかいいき	土砂災害が発生した場合に、住民の生命または身体に危害が生じるおそれがある区域です。
土地区画整理事業	とちくかくせいり じぎょう	道路や公園などの公共施設と宅地を一体的に整備し、健全な市街地を形成する事業です。
土地利用	とちりよう	住宅、商業、工業、農地、森林など、土地をどのような目的で利用するかということです。

用語	よみがな	解説
な行		
内水対策	ないすいたいさく	大雨時に下水道や水路の排水能力を超えて起こる浸水被害を防ぐための対策です。
農業集落排水	のうぎょう しゅうらくはいすい	農村地域の生活排水を処理するための施設や仕組みのことです。生活環境の改善や水質保全を目的とします。
農用地区域	のうようちくいき	農業上の利用を確保すべき土地として指定された区域です。原則として農地以外への転用が制限されます。
乗合タクシー	のりあいたくしー	複数の利用者が乗り合って移動する交通サービスです。公共交通空白地域の移動手段として活用が検討されます。

用語	よみがな	解説
は行		
排水対策 マスタープラン	はいすいたいさく ますたーぷらん	河川改修や排水路整備などを総合的に進め、浸水被害の軽減を図るための基本的な計画です。
ハザードマップ	はざーどまっぷ	洪水、土砂災害、津波などの災害リスクや避難場所などを地図上に示したものです。
バリアフリー化	ばりあふりーか	高齢者や障がいのある人などを含め、誰もが安全かつ円滑に利用できるよう、段差解消や設備改善などを進めることです。
避難路	ひなんろ	災害時に安全な場所へ避難するための道路や通路のことです。
ヒートアイランド 現象	ひーとあいらんど げんしょう	アスファルトやコンクリートに覆われた都市部の気温が、郊外に比べて高くなる現象です。

用語	よみがな	解説
は行		
PPP・PFI	ぴーぴーぴー・ ぴーえふあい	公共施設の整備や運営などに民間の資金やノウハウを活用する手法です。PPPは官民連携全般、PFIはその代表的な方式です。
不燃化	ふねんか	建築物を燃えにくい構造にすることです。延焼防止や防災性向上に役立ちます。
平地林	へいちりん	平坦地に広がる樹林地のことです。田園景観を構成し、防風や環境保全などの役割を持ちます。
防火地域・ 準防火地域	ぼうかちいき・ じゅんぼうかちいき	市街地における火災の危険を防ぐため、建築物の構造や規模に応じた制限を設ける地域です。
防災拠点	ぼうさいきよてん	災害時に避難、救援活動、物資供給、情報収集などの中心となる施設や場所です。
防災・減災	ぼうさい・げんさい	災害を防ぐ取組と、災害発生時の被害を最小限に抑える取組のことです。
防風林	ぼうふうりん	強風や飛砂、潮風などを防ぐために設けられる樹林のことです。海岸部では防災や景観形成に重要です。

用語	よみがな	解説
ま行		
未利用公有財産	みりようこうゆう ざいさん	公共施設の統廃合などにより、現在利用されていない市有地や建物などの公有財産のことです。有効活用が課題となります。

用語	よみがな	解説
や行		
屋敷林	やしきりん	住宅の敷地内や周辺に植えられた樹木群のことです。防風や防火、景観形成などの役割があります。
谷津田	やつだ	丘陵地の谷あいにある田んぼのことです。千葉県らしい自然環境を形づくる要素の一つです。
用途地域	ようとちいき	住居、商業、工業など、土地利用の種類に応じて建てられる建物や用途を定める都市計画の制度です。
ヨウ素	ようそ	天然ガスとともに産出される貴重な資源です。千葉県は世界有数の産地であり、白里地区臨海部にはその製造拠点が立地しています。
遊休農地	ゆうきゆうのうち	以前は耕作されていたものの、現在は耕作されていない農地のことです。

用語	よみがな	解説
ら行		
ライフライン	らいふらいん	電気、ガス、上下水道、通信など、日常生活や都市機能を支える基盤のことです。
立地誘導	りっちゆうどう	都市計画や土地利用の方針に基づいて、特定の機能や施設を望ましい場所へ誘導することです。
6次産業化	ろくじさんぎょうか	農業者が、農産物の加工や販売・流通までを一体的に行い、新たな付加価値を生み出す取組のことです。